金鱗湖周辺の観光地へ至る玄関口としての河川公園と商業施設の設計

高知工科大学　システム工学群　建築・都市デザイン専攻

石田創

指導教員　重山陽一郎

1.　背景と課題

a）観客増加

対象敷地である大分県由布市湯布院町は県内有数の観光地であり、街並みや自然を眺めながら散策や食べ歩きができる金鱗湖や湯の坪街道が非常に人気である。2024年の総観光者数は429万人と非常に多く、駐車場不足などの問題が発生している。

図１　湯の坪街道から見た由布岳

b）観光地への玄関口が不明確

由布市湯布院町には大きな駐車場がなく、乗用車で来た観光者にとって非常に不便である。また、由布市湯布院町には駐車台数が少ないコインパーキングが複数点在している。そのため、単なる駐車場を設備していても観光者が存在を知らなければ駐車されない可能性がある。

c）観光地以外の回遊性の低さ

由布市湯布院町には金鱗湖と湯の坪街道という回遊することができる観光地が隣接しているが、最寄り駅である由布院駅から観光地までの道中は一本道になっており、非常に回遊性は低いという問題点がある。

2.　目的

由布市湯布院町を回遊することができる観光地への玄関口を提案する。商業施設や公園、駐車場を設けることで観光地に行くまでに立ち寄る新たな場所を設け、観光地の玄関口として利用されることを目的としている。また、観光地までの新たな経路を作ることで、町全体の回遊性を高める。

3.　対象敷地の現状

対象敷地は大分県由布市にある由布院駅と湯の坪街道の道中である。川の合流地点や自然に溢れた場所となっているが、敷地自体は全く手入れされておらず、植物が無造作に生い茂る空き地になっている（図２）。

図２　対象敷地周辺の衛星写真
（国土地理院地図に筆者加筆）

図３　現在の対象敷地周辺

4.　設計方針

a）観光地の玄関口にふさわしい空間構成

川の合流点にかかる橋を視点場（図２）とすると、由布岳と対象敷地の公園・商業施設が同時に眺めることができ、観光者の興味を引く景観とする。

b）駐車スペースの確保

乗用車と観光バスの駐車場を設けることで、乗用車で来た観光者の利便性を高める。

c）観光地までの新たな経路を設け、回遊性を高める

対象敷地から金鱗湖までの河川に沿った経路（図２）を新たに設けることで、回遊性を高める。また、観光者に分かりやすく、かつ豊かな自然を見ながら金鱗湖へ行くことができるよう設計する。

d）商業施設のデザイン

観光地の玄関口としてふさわしい商業施設を設け、自然と共存する魅力的な景観とする。また、建物の隙間や小さな段差を設けることで回遊性の高い商業施設とする。

5.　設計

a）公園

視点場（図２）から公園で遊んでいる様子やくつろいでいる様子を見て敷地内へ誘導するため、視点場に最も近い場所に公園を配置した。そのため、公園全体を緩やかな斜面にすることで、視点場から全体を見渡せられるようにした（図４)。また、イベントやキッチンカーが来た際には場所を活用することができる。さらに、敷地周辺は地域住民のウォーキングコースとなっているため、公園にも歩道を設けることで地域住民も利用することができる空間にした。

敷地内に入るために川の合流地点付近に飛び石を設けることで、歩いて公園に入ることができるように設計した。また、飛び石を用いて敷地に侵入することで、簡単かつ身近に自然を体感できる。水深は非常に浅く安全であり、現地調査した際に現地の幼児が保護者と川で遊んでいた。

図４　視点場から見た敷地

b）商業施設

敷地内へ誘導するため、視点場（図２）から商業施設の奥が見えるよう配置した（図４)。商業施設はお店の隙間を進み、小さな段差を上り下りすることで楽しめられるような設計した。また、木々を配置することでショッピングしながら、自然体験をすることができる。商業施

設の配置や床の形に規則性がないことで、奥の景観が見え、自然と人工物が共存することができる設計にした。お店の内容としては飲食店や雑貨店を想定をしている（図 5,6)。

図 5　商業施設の玄関口

図 6　商業施設の様子

商業施設は屋外が見えやすいように大きな窓を設け、食事や買い物を楽しめるように設計した。また、玄関口も開口部を大きくし、誰でも入りやすく、中の様子が見えやすいような設計にした(図 7,8)。

図 7　商業施設の外観

図 8　建物の玄関口

商業施設と公園を抵抗なく行き来できるよう、構造物は最小限にした。また、イベントやキッチンカーが来た際は商業施設と公園の境界で行うことを想定している（図 9)。

図 9　商業施設と公園の境界

c）テラス

小さな段差を設け、川に近づくことのできるテラスを計画した。テラスを歩くことで自然を感じつつ、飲食店で購入したものを楽しむことができるように考えた。また、身体障害者用に緩やかなスロープを設けることで、誰でもテラスを利用することができようにした。テラスも商業施設同様に、不規則な床の形にすることで自然との共存を図っている（図 10)。

図 10　テラス

d）駐車場

乗用車は 54 台、観光バスは 8 台停められる駐車場を設計した（図 11）。また、駐車場は景観に悪影響を及ぼす可能性があるため、視点場から見えない位置に配置した。

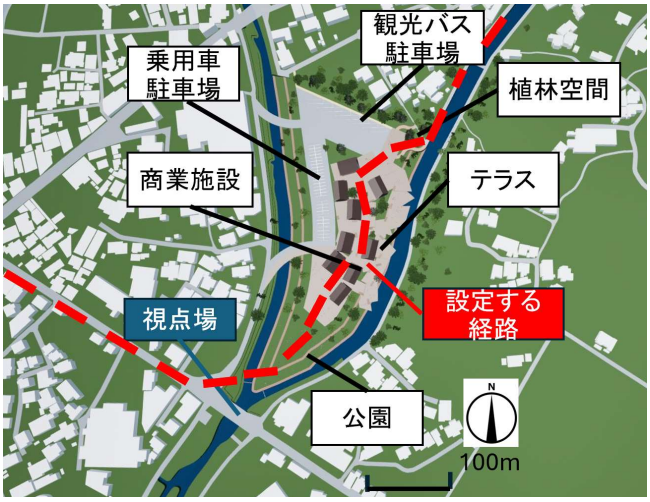

図 11　敷地全体の平面図

e）観光地へ向かう経路

金鱗湖へ向かう経路に植林空間を設けることで観光者の興味を引き、金鱗湖までの河川沿いの経路へ誘導する（図 12）。

図 12　植林空間

6.　参考文献

1)湯布院湯の坪商店会(https://yunotubo.com/)

2)日本経済新聞
(https://www.nikkei.com/article/DGXZQOJC092FB0Z00C25A7000000/)

3)【公式】ハルニレテラス｜軽井沢星野エリア
(https://www.hoshino-area.jp/harunireterrace/)

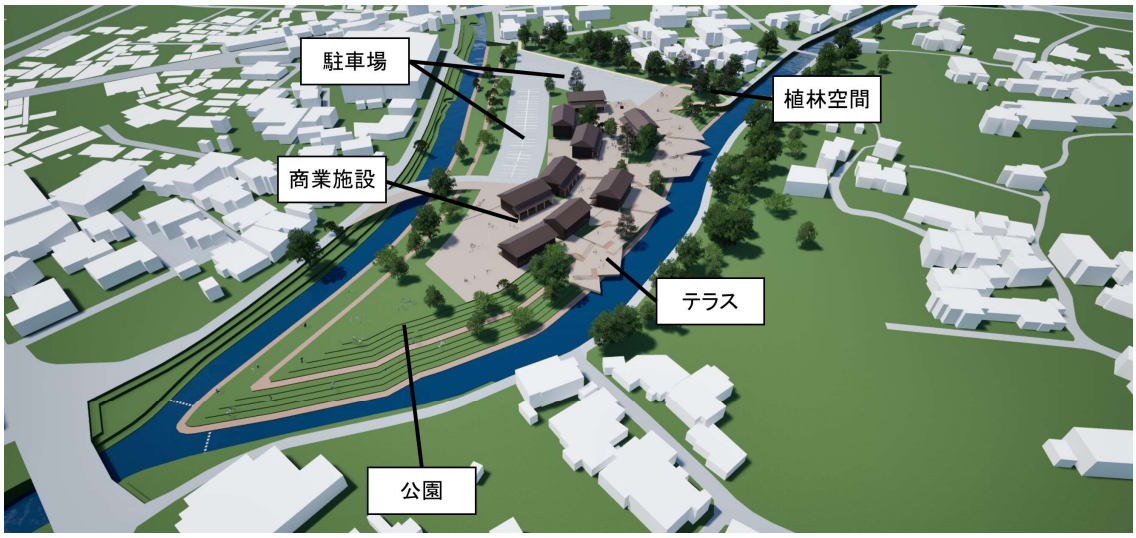

図 13　全体鳥観図